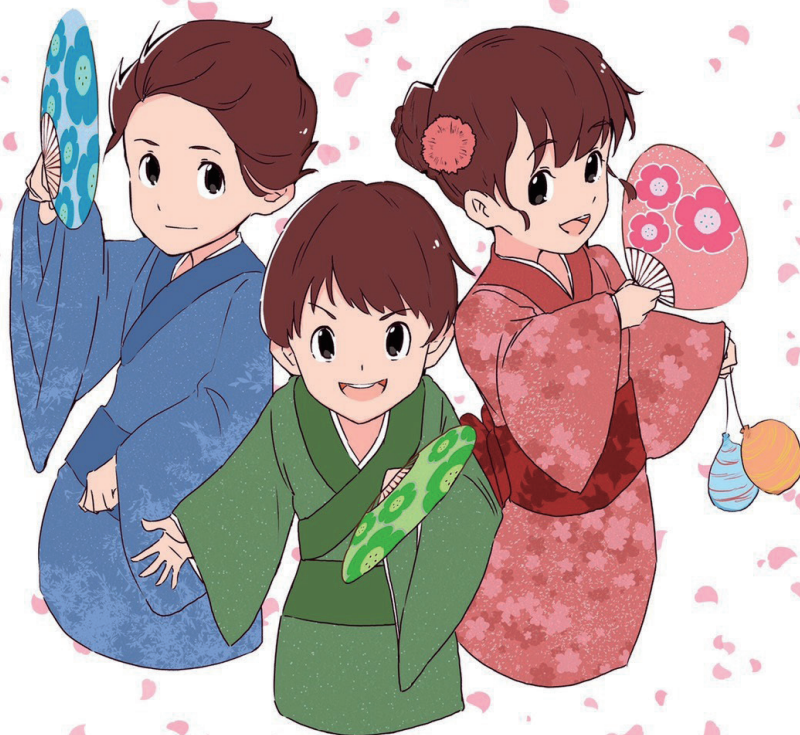




一般社団法人はらいふ

2020年度 事業報告書

人のつながりの中で、
誰もが自分を生きられる社会を目指して



人と出会いつながる場を つくり続ける

フリースクールはらいふが始まって3年目の報告書ができました。

2020年はいうまでもなく、コロナウイルスによって社会全体に様々な困難がありました。子どもたちは、突然の臨時休校によって生活が一変してしまいました。はらいふも大変迷いながら、4月にあった一番最初の緊急事態宣言を受けて、一時休校しました。人と出会いつながる場をつくり続けてきた私としては、存在自体が否定されたような気持ちになっていました。

オンラインで子どもたちとのつながりは絶やさずにと工夫はしましたが、学習のみならず、子どもたちが自由に過ごすことや、体験を重視するはらいふの活動とは隔たりが大きすぎるものでした。数週間たち、はらいふの生徒の保護者さんのおひとりから「もう限界です」というLINEをいただきました。不登校の子どもたちの中には、学校も休校になったし気楽になったと言う声もありました。けれど、同時に「どう過ごしていいかわからず辛い」「家族との関係が煮詰まってしまう」という声も聞こえてきました。

そこから急いで準備をし、ゴールデンウィーク明けからは「はらいふ1DAYリフレッシュ」として、1日単位で利用できる形で実施しました。(詳細はあとのページをお読みください)約1ヶ月全然外に出なかったと聞いていた子が、久しぶりに原の自然の中で解き放たれている姿をみて、

ほっとした気持ちになったことをよく覚えてます。

そうこうしているうちに学校も再開され、はらいふも再開することができましたが、もし同様の休校が起こったとしても、なんとか形を工夫つつ、必要な人のために以降は場を開き続けようと心に決めました。そして制限がかかる中でも、子どもたちの“やりたい”をなんとか形にすべく苦心しています。このコロナ休校の経過があり、私たちの大切にしていること、取り組んでいくことがまたひとつ明確になったように感じています。

残念ながらまだコロナ禍は続き、あらゆる方面に影響がありそうです。私たちは、ご相談という形で子どもやご家庭への影響をひしひしと感じています。感染症もさることながら、社会の環境の変化による子どもたちへの心身への影響も見過ごすことはできません。

困難なときこそ、立場や考え方の違いに分断されることなく協力して、子どもたちにとって少しでも良い環境をつくっていきたい。そんなことを思いながら、はらいふでの日常を紡いでいます。

一般社団法人はらいふ 代表理事 木脇嶺



フリースクールはらいふは こんな場所

自分たちが主役となって自由な時間を楽しめる場、あるいは、寄り添い、サポートされることで一人ひとりに合った学びの場を得られることを目指して活動しています。

多様な体験学習
の他、本人の望むペース・内容での教科学習もサポートします。

「しなくてはいけないこと」はなにもありません。本人の意思を尊重した過ごし方を大切にしています。

なによりも、楽しく幸せな毎日過ごすことを大切にしている場所です。

主として不登校の10代の子どたちが安心して自由に学び・過ごすことのできる場所として、2018年6月に高槻市原にオープンしました。

活動時間は月・火・木・金の10:00～17:00。
いつ来ても、いつ帰ってもOKです。また、自力での通学が難しい方には車での送迎を行っています。



2020年
はらいみのハイライト



コロナ休校期間限定
「1DAYリフレッシュ」

5月

書き初め



8月

流しそうめん



野焼きバームクーヘンづくり



ハロウィンパーティー

10月



1月

修学旅行



～フリースクール再開～

6月



9月

夏合宿



ダーツの旅



12月

クリスマス会



防音室DIY



もちつき



11月

清水寺へおでかけ



7月

海水浴



高槻フィールドアスレチック



18きっぷの旅



3月

節分



4月

～緊急事態宣言
で休校～

卒業式



ちまたん2歳の誕生日



2月

サバイバル合宿



コロナ休校期間限定「1DAY リフレッシュ」 実施しました！

2020年3月、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全国の学校が休校となりました。また4月には緊急事態宣言の発令によって、学童保育や放課後等デイサービス、保育所などでも利用自粛が促され、家庭以外で子どもたちが過ごすことのできる場は著しく減りました。

フリースクールはらいふも、苦渋の決断で4月13日以降休校といたしました。母子家庭の方から「全く外にでることもなく、イライラをぶつけられる。もう限界だと思う」という声を聞き、「近しい思いをしている家庭も多くあるのではないか」という思いから、『1DAY リフレッシュ』事業を立ち上げました。

感染症の拡大はもちろん防止しなければならないですが、こどもたちの発散やストレスケア、あるいは保護者の方が子育てに疲弊し虐待等が起こらないようにすることも大変重要な課題であると認識しています。

『1DAY リフレッシュ』事業は、

- ・長期休校によって、疲弊している保護者へのレスパイト
 - ・家に1人であるこどもや、様々な要因で家にいることが辛いこどもの発散やケア
 - ・学童保育への利用自粛の促しや、放課後等デイサービスの休止によって、こどもを自宅で見るのが難しい家庭へのサポート
 - ・公園で遊んでいるだけで怒られるなど、こどもが安心して過ごせる場所づくり
- を目的とし、

当スクールを利用する人や不登校の人に限らず、小学1年生～18歳までの子どもを対象に実施しました。

- 実施期間 5/11～5/30（3週間）
月・水・金 10:00～17:00 / 途中参加&退室OK

- 実施日数 9日間

- のべ参加人数 51名（実人数10名）

参加者内訳 年齢別



フリースクール生 / 他



利用料免除

1名利用
(のべ8回)

「うちのひとのおしゃべり会」を実施しました！ 来年度も定期的に開催します。

今年度からの試みとして、不登校やそれに近い状態にあるお子さんがいるご家族を対象としたおしゃべり会を実施しました。

昨年度までと同様に個別相談をたくさんお受けしており、入会希望の方にはキャンセル待ちをお願いしている現状があります。また、お子さんの気持ちが動く時を待ちながら、できることは準備しておきたいとまずはご家族だけがご相談に来られて機会を待っておられるという場合もあります。

私たちができることは当スクールに通っていただくという関わり方だけではないのではないかと、ご家族の方がもう少し気軽に話せる場があったらいいな、他のご家庭の様子を聞くだけでも心が軽くなることもあるのでは、と考えたからです。

初回の8月には予約開始後すぐに定員に達し、ニーズが高かったことに気がきました。

当スクールに入会されていない方も対象としており、参加者はほぼ初対面同士となりましたが、2時間があつという間に感じるほど活発に会話が交わされました。病院の受診から診断までの流れや家族の受容など、それぞれのご経験を共有していただき、学びの多い時間となりました。

10月の会では初回とはまた違った話題が出てきました。睡眠や食事について、きょうだい同士の関係、学校との関わりなど。参加する人たちによって作られていく空間だなと感じました。今後も定期的に開催していきたいと考えています。

講演やゲストスピーカー等の機会も増えています！

昨年度の報告書にもあるように、こどもたちの選択肢がより増えるよう、フリースクールが増えていくことを願っています。こどもや家庭に対しての周知だけでなく、関係機関や地域に向けて、また教育に関わる人たちに向けて、フリースクールの現状や意義・課題を伝えられる機会を頂けるのは嬉しいことです。

3月15日/9月14日 高槻市ひきこもり支援交流会参加

8月23日 石川晋さんと対談イベント@co-arc

9月12日 フリースクールはらいふのことを知ってもらう会@喫茶去ゆり（卒業生の保護者主催）

11月11日 金蘭千里大学にて木脇がゲストスピーカー

11月13日 龍谷大学にて鶴野がゲストスピーカー

11月28日 オンラインイベント『知ってほしい学校とは少し違う道を』（はらいふボランティア主催）

12月23日 大阪府教委 不登校ワーキング委員会参加

学校と一緒に子どもたちを支えたい

現在、高槻市・茨木市・島本町の公立小中学校では、はらいふへの来所が「出席日数」として扱われています。毎月子どもたちの在籍校へ、出席状況と活動中の様子を共有しています。子どもの気持ちを尊重しつつ、はらいふに学校の先生がやってくることや、教材の提供等をしてもらうこともあります。

中学校以降の進路について、子どもやご家庭のニーズは様々です。毎年、中学3年生については家庭や学校とも密に連携し、納得感のある進路選択ができるように願っています。

はらいふは、学校復帰を目的にしている場ではありません。しかしながら、行きたいと思った時には学校“にも”通えるように、環境を整えるお手伝いをしたいと思っています。

また通信制高校を選び、はらいふを「ホッとできる場所」としている子どもや、「レポートと一緒に頑張るところ」としている子どももいます。そんな子どもたちを応援するために、通信制高校との連携をもっと強化したいと考えています。

気付けば、21年度に中学3年生となる生徒が5人。

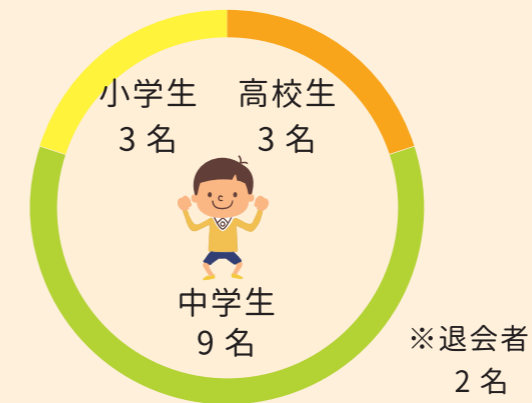
スタッフも動き出します！

2020年度相談件数

| | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|--------|--------|--------|--------|
| 新規相談件数 | 35件 | 42件 | 49件 |
| うち入会者数 | 11名 | 8名 | 5名 |

生徒内訳

登録者数：15名（うち高槻市内生11名／市外生4名）



減免実績

2020年度寄付総額 1,088,800円

2020年度減免総額 849,000円
(減額：2名／免除2名)

関係機関先一覧

高槻市教育委員会 / 高槻市生活福祉支援課 / 高槻市立子育て総合支援センター「カンガルーの森」
 社会福祉法人高槻市社会福祉協議会 / 社会福祉法人花の会 相談支援センタースキップ / NPO 法人ここ
 社会福祉法人北摂杉の子会 子ども相談支援センター wish / NPO 法人おてらおやつクラブ
 社会福祉法人北摂杉の子会すぎのこ訪問看護ステーション / 認定 NPO 法人ふーどばんく OSAKA
 一般社団法人根っこわーくす / NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝 / 大阪精神医療センター
 NPO 法人ネットワーク医療と人権 / 大阪府吹田子ども家庭センター / 大阪府教育委員会



2020 はらいふの目々

今年もはらいふにて、たくさんの子どもや大人と出会いました。
休校もあったけど、やっぱり大事にしたのは「つながっていること」です。

イベント様々

- ・卒業式にて尾崎豊を熱唱
- ・ハロウィンでピッコロが迎えに来たよ
- ・頂き物のチョコフォンデュでパーティーしたよ
- ・ダーツの旅で道ゆく人に質問
「美味しいご飯屋さんありますか？」
- ・夏合宿にて、
焚き火を囲んで不登校について語る
- ・写真部発足

ありがとうございます！

- ・みんなでほしいもののリストを作成！
- ・匿名の方からカビゴンのぬいぐるみをいただきました！なんと綿が入っておらず、はらいふにある座布団から綿をかき集めて詰めて完成！
- ・ドラムを寄付してもらおう→ハマる
→音量が気になり、みんなで話し合う
→防音室を自分たちで作ろう！
→ボランティアさんとDIY

はらいふに来てないときにも、 つながってるよ

- ・他のフリースクールと合同で
オンラインスマブラ大会。関西ナンバー1に！
- ・子ども同士で約束して遊びに行ったよ。
カラオケや映画はもちろん、ファミレスでジュース
を混ぜて特製ドリンクを作ったり。
誰かの家で集まることもあるらしい。
- ・フリースクールになかなか行きづらいけど、
LINE の出現率はなかなか高いよ
- ・餅つきのお餅をおうちに届けたよ

ボランティアさん様々

- ・愛知県からはらいふ住み込み
- ・デザインの仕事を
一緒にやってみる

入院している子のところへ

- ・一時外泊中に一緒に学校見学
- ・みんなで書いたお手紙を渡す
- ・病院の先生とフリースクール
スタッフで相談・連携



通信制高校の合同説明会

- ・説明会後は、
梅田のカフェでお茶♪



コロナ休校、1DAYリフレッシュ

- ・各学校もフリースクールも休校に
- ・子どもたちはもちろん、保護者さんの
切実なニーズをキャッチした
- ・「はらいふおやつ時間」として
オンラインでつながる
- ・みんなのきょうだいにも会えて
いっぱい遊んだよ

卒業生との再会

- ・生徒以外も来れる餅つき大会に参加
- ・休職中にはらいふでひと休み。
“ちょっと相談”
- ・近くの畑でばったり！一緒に芋掘り
- ・受験する大学が決まったので報告に

おうちの人のおしゃべり会

- ・個別相談をたくさん受ける中、
「他のお家はどうだろう？」ニーズをつかむ
- ・キャンセル待ちをして頂いてるご家庭とも
つながり続けています
- ・子どもへの対応についてだけでなく、
病院や学校との関わりなど
ローカルな情報交換も

一緒に考えよう

- ・体調不良や気になることを呟く
- ・スタッフと相談して病院へ行ってみたよ
- ・はらいふや家の過ごし方で
工夫できることを考えてみた
- ・フリースクールスタッフと
学校の担任の先生がばったり会うことも



情報発信しています

フリースクール WEB

<https://www.halife.me>

ブログ「はらいふにつき」

<https://blog.halife.me/>

instagram

<https://www.instagram.com/halife.me/>

Facebook

<https://www.facebook.com/core.halife/>

はらいふの日常を
こどもたちやボランティアと
一緒に更新中！



はらいふのマンスリーサポーターのお願い

はらいふへの寄付は”すべて”、経済的理由でフリースクールに通うことを諦めてしまう 10 代のために使われます。

<https://www.halife.me/donation>



コミュニティハウス
はらいふ

一般社団法人はらいふ

address 〒 569-1051 大阪府高槻市原 91-13

TEL 072-668-6440

Mail info@halife.me

LINE [@halife](https://line.me/tv/@halife)